

## 執筆者紹介

鎌田 慧 ルポライター  
伊藤奈々恵 毎日新聞社記者  
山本 武彦 早稲田大学名誉教授  
藤本 一美 本学名誉教授  
末次 俊之 本学法学部助教

## 〈編集後記〉

社研月報4月号「シンポジウム：青森県下北“核”半島の現状と課題」をお送りする。これは2015年10月10日に行なわれた同タイトルのシンポジウムの記録である。現在われわれの目は福島第一原発に向かいがちだが、静かに、しかし様々な問題を孕んで青森県六ヶ所村の核燃料サイクル施設がある。

社会科学研究所は1995年夏期合宿研究会で同施設を訪れたことがある。19名の参加であった。見学したのは、六ヶ所村における燃料サイクル施設のうち、ウラン濃縮工場と低レベル放射性廃棄物埋設センター（稼働中）と、当時も現在も建設工事中の使用済み核燃料再処理工場の附属施設である高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センターだった。当時 MOX 燃料工場建設の計画・着工は2000年以降なので、当時はまだ話題に上っていなかった。この合宿研については、この『月報』393号（1996年3月号）に特集を組んでいる（「六ヶ所村核燃施設視察特集」）。もう20年以上も前の特集号をめくると、当時の写真が掲載されており、参加した所員のうち半数以上がリタイアされ、あるいはお亡くなりになっている所員も少なからずいて感慨深い。

昨年10月に行なわれたシンポジウムの報告者はルポライター鎌田慧氏、毎日新聞社記者伊藤奈々恵氏のお二人で、それに2名の討論者（早稲田大学名誉教授山本武彦氏、専修大名誉教授藤本一美氏）が加わるという形式であった。研究会後、社研側から、その模様を『社会科学研究所月報』に編むことを提案し、シンポジウムを企画実行した所員グループから録音データを預かって文字起こしを発注した。しかし録音状態が良くなかったので、文字起こしが不可能な部分もあり、おそらく各報告者・討論者および社研との仲介役を担ってくれた末次俊之所員は、校閲作業には苦勞されたことと思う。

そうした事情もあって、シンポジウム実施の年度内発行には間に合わなかったが、こうしてようやく出来上がって、報告者・討論者のご協力に感謝する一方、『月報』編集の側からすると不満もある。ご覧になって分かるように、報告の後の討論が欠落している。その点で、シンポジウムの記録としては完全なものではないが、それでも各報告の記録がまとめられたことを了としたい。  
(S.M)

---

2016年4月20日発行

神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1番1号 電話 (044)911-1089

専修大学社会科学研究所

The Institute for Social Science, Senshu University, Tokyo/Kawasaki, Japan

(発行者) 村上俊介

製作 佐藤印刷株式会社

東京都渋谷区神宮前2-10-2 電話 (03)3404-2561

---